



◆◆◆◆ 逆境の法則 ◆◆◆◆

今の時代は、子どもたちにとって生きて行くことがとても難しい時代です。右肩上がりの経済成長は古き良き時代の話で、学校を卒業してもまともに就職できない若者で溢れています。それに加え、地震や豪雨や竜巻などの自然災害が頻発し、次はどんな災害が起こるだろうかと、人々は常に不安を抱えています。

子育てをする親たちにとっては、ほんとうに心配の種が尽きませんが、こんな時代の中で、子どもたちをしっかりと育ていくためには、親たちがまず気持ちをしっかりと引き締める必要があります。ご存知でしょうか。自然界には「逆境の法則」があるのです。つまり、辛く厳しい状況があつてこそ、自然の動植物はそれを乗り越えて生きていく力を身につけるといふことです。



私が小さい頃、地面が霜で真っ白になるような寒い朝に、お百姓さんが麦踏みをしている姿をよく見かけました。せっかく芽を出したばかりの麦を、どうしていじめるのだろうと不思議に思って母に尋ねると、「踏まれることでもっと強くなって、雨や風に負けない立派な麦に育つよ」と教えられました。まあ、北海道のように大規模な農業をしているところでは、麦を踏み姿は滅多に見られないかもしれませんが、ネットで調べてみたところ、トラクターに麦を押しつぶすためのローラーをつけて引っ張ることもあるのだそうです。

さて、人間はどうでしょうか。人は困難に出会う時、「なんで自分はこんな目に遭わなきゃいけないんだ・・・」と暗い気持ちになるでしょう。だから、多くの親たちは子どもたちから少しでも障害になるものを取り除いてやりたいと考えます。でも、ある程度の困難はむしろ経験させなければならないのです。失望したり、悲しんだり、痛みを感じたり、不安になったり、そういうことを経験しないと、この先この厳しい世の中で生きて行くことはできないのです。また、人の痛みや悩みを理解し、同情し、励ましてあげられるような魅力的な人間になるためには、どうしても辛い経験を通さなければならないのです。

◆◆◆◆ 好奇心を刺激し続けるなら ◆◆◆◆

赤ちゃんは好奇心のかたまりです。この強い好奇心を大人になるまで持ち続けたら、ノーベル賞級の科学者にだってなれるかもしれません。でも残念なことに、その好奇心は放っておくと、どんどん失われていきます。親や学校の先生が好奇心を刺激してやらないと、何事にもあまり興味を示さない無関心で無感動な子どもになってしまいます。かつて、私は何人かの小学生を引率して飛行機に乗ったことがありました。彼らは生まれて初めて飛行機に乗ったのですが、巨大なジャンボ機に全然興味を示さないので、私は少々がっかりしました。そこで私は言いました。「ねえ君たち、飛行機初めてだろ？今から、この飛行機は空を飛ぶわけだけど、地面を離れる時の速度はどれくらいだと思う？それから、エンジンは翼に4つつけているけど、もしその一つが故障しちゃったらどうなると思う？」すると、子どもたちは好奇心を刺激されて、いろいろな意見が飛び交いました。しばらくして私はこう言いました。「それじゃ、正解を言うよ。ジャンボジェットは新幹線と同じくらい、つまり時速300キロくらいで地面を飛び立つんだよ。だからもうすぐこの飛行機はレーシングカーみたいに急加速するよ！」すると子どもたちは目を輝かせて「えー！ かつこいいい！」？そこで私はさらに付け加えました。「それにね、たとえ4つのうち3つのエンジンが故障しても、なんとか飛び続けることができるんだよ。」子どもたちは「すごいね!! ねえ、ジャンボってどのくらいの重さなの？ どうしてこんなに大きくて重いものが空を飛べるんだろう？」と大いに好奇心を刺激されて、離陸した時には歓声をあげたのでした。

さて、もし親や学校の先生が、子どもたちの好奇心を上手に刺激するなら、勉強にだってこれと同じように大いに興味を示すことでしょ。

